

都市小河川策川におけるオオクチバスの生息環境について

○宮城大学大学院 宮井 克弥
阿武隈生物研究会 池田 洋二

1. はじめに

宮城県仙台市を流れる策川は、下流域から中流域にかけて多自然型河川工法による親水空間が設けられおり、一般市民でも策川に生息する国内在来種や通し回遊魚を身近に体験することが出来る。未整備の上流域では、宮城県レッドデータブックに準絶滅危惧種に指定されているホトケドジョウやスナヤツメの生息報告がある¹⁾。一方、特定外来種に指定されているオオクチバス *Micropterus salmoides* も生息しており、その高い捕食圧による生物群への悪影響が数多くの研究報告されている。そのため在来魚の保全と外来種の生息分布を拡大させない最大限の注意を払う必要があるが、現段階ではほとんど効果的な対策が取られていない。そこで、本研究は策川におけるオオクチバスの拡散防止と効率的な駆除を実施することを目的として、策川流域のオオクチバスの生息環境について調査・考察を行った。今回はこれについて発表をする。

2. 調査河川の概要

策川は流程約 12 km の一級河川名取川の支川であり、太白山から南下して仙台市郊外を通り名取川へと注いでいる都市型小河川である。現在でも中流域では洪水等の災害防止のために河川整備が行われているが、未整備の上流域が現存しているために流域全体を通して小学校から大学生、市民センター等の教育機関の環境学習の場として活用されている。

3. 調査方法と項目

調査は 2 段階に分けて行った。

調査①：生息魚種の把握。策川流域において平成 24 年 11 月と 12 月に実施した。調査人数 3 名、調査器具はたも網とサデ網を用いた。捕獲時間を 1 時間と統一して、現場で種同定と体長測定を行った。計測後オオクチバスは殺処分して、それ以外の魚種は再放流した。

調査②：オオクチバスの生息環境計測。平成 25 年 1 月にオオクチバスが確認された地点で再度、捕獲調査と水理環境を計測した。計測項目は水温と流速である。

4. 結果と考察

調査①の結果は表に記す。オオクチバスは下流部流域に生息していることが確認できる。採取された最大体長は 17.0 cm で来年度の繁殖期には繁殖行動が可能な個体と推察される。調査②ではオオクチバスの生息確認区画において追加調査を行いその結果と考察について中心に報告を行う。

表 策川における出現種とその場所

種	場所											
	下流 杉の下橋	熊野宮橋 (下流部)	(上流部)	唐松橋 (下流部)	(上流部)	斜路工上流部	後田川合流地点	下水道橋	西高校前	大仏橋	ほたる学習館	上流 貯水池BOXカルバート
サンフィッシュ科	オオクチバス*	○	○	○	○	○						
ヤツメウナギ科	スナヤツメ**									○		
ドジョウ科	ドジョウ			○				○	○	○		
	ホトケドジョウ**								○	○		
コイ科	アブラハヤ	○			○		○	○	○	○	○	○
	ウグイ	○	○	○		○					○	
	オイカワ	○				○	○	○				
	ギンブナ	○									○	○
	コイ	○	目視	○								
	タモロコ	○	○									
	モツゴ						○					○
ハゼ科	ウキゴリ	○			○		○					
	オオヨシノボリ							○	○	○		
	チチブ	○										
	トウヨシノボリ	○				○						
カジカ科	カジカ								○			
サケ科	ヤマメ									○		
甲殻類	モクスガニ	○				○				○		
	ヌカエビ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

* オオクチバスは太字で表記した。** 宮城県レッドデータブックに掲載されている種を斜体で表記した。

参考文献

- 1) 池田洋二, 浅野一彦, 後藤光亀. 都市内小河川策川の魚の生息状況と河川空間特性. 平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表講演概要, 2006 ; 810-811pp.